



(上写真)アライグマは可愛い顔をしながら、現在市内の自然に最も悪影響を与えている外来生物です。元々はペットとして日本に持ち込まれましたが、人間の無責任な行動により野生化してしまい、個体数が急増しています。写真は捕獲された成体です。(菅生地区)

(下写真)アライグマの被害を受けたあきる野市のシンボルであるトウキョウサンショウウオ(絶滅危惧種)。成体と卵のうを雑に捕食した様子です。(三内地区、横沢入周辺)



自然が苦しむ現状の話



あきる野の豊かな自然を守るために活動している私は、様々な環境問題への対処方法について悩むことが多いです。自然と向き合う時は、現状を正確に確認してから行動をすべきです。そうしないと事態が悪い方向に進むばかりで、結果的に自然の復元や問題の解決は難しくなってしまいます。

間もなく春がやって来て、沢山の生き物があふれる季節になります。様々な生物が繁殖を行います。外来生物はその自然の安定した営みを破壊してしまう非常に危険な存在です。皆さんも一度は耳にしたことがあるはずのアライグマやハクビシンが、生態系に大きな影響を与えています。この哺乳類たちは日本の自然環境に適応して野生化し、増加してしまいました。ハクビシンは江戸時代から生息していると思われていますが、アライグマは70年代に定着し、急増しています。約20年前から市内に生息しているようですが、現在はタヌキと同じくらいの個体数がいるのではないかと思います。

外来生物による多くの被害を目の当たりにし、将来の自然環境に不安を感じています。全滅させられた両生類の産卵場所や、キツネなどのすみかが奪われ、生息場所がなくなってしまった現場も見てきました。そして野生生物だけではなく、農作物や文化財など人にも被害を及ぼしています。

今年度から環境政策課では生態系を守るため、外来生物対策に取り組んでいます。私は先月からその対策の一つである捕獲活動に参加し、アライグマ2頭の捕獲に成功しました。この活動の成果により、在来種の生息環境が守られると深く信じているため、この先も捕獲作戦を継続したいと思います。なお、環境政策課ではこれまでにアライグマ5頭とハクビシン1頭を捕獲しました。

他にも、市内では多くの外来生物の生息が確認されていて、深刻な状況の起源となっていることも少なくありません。住宅街の緑地に侵入してきたタイワンリス、池でよく見かけるアカミミガメやアメリカザリガニなど、枚挙にいとまがありません。

外来生物が野外で生息し始めてしまったら、在来種や人間に影響が出るのはほぼ確実ですが、対策は非常に困難となり、自然の復元が不可能になるケースが多いです。

自然の保護は皆の責任であると考えます。

[パブロ]



(左写真)子育てをしているハクビシンの様子。木の洞をねぐらにしています。(養沢地区)

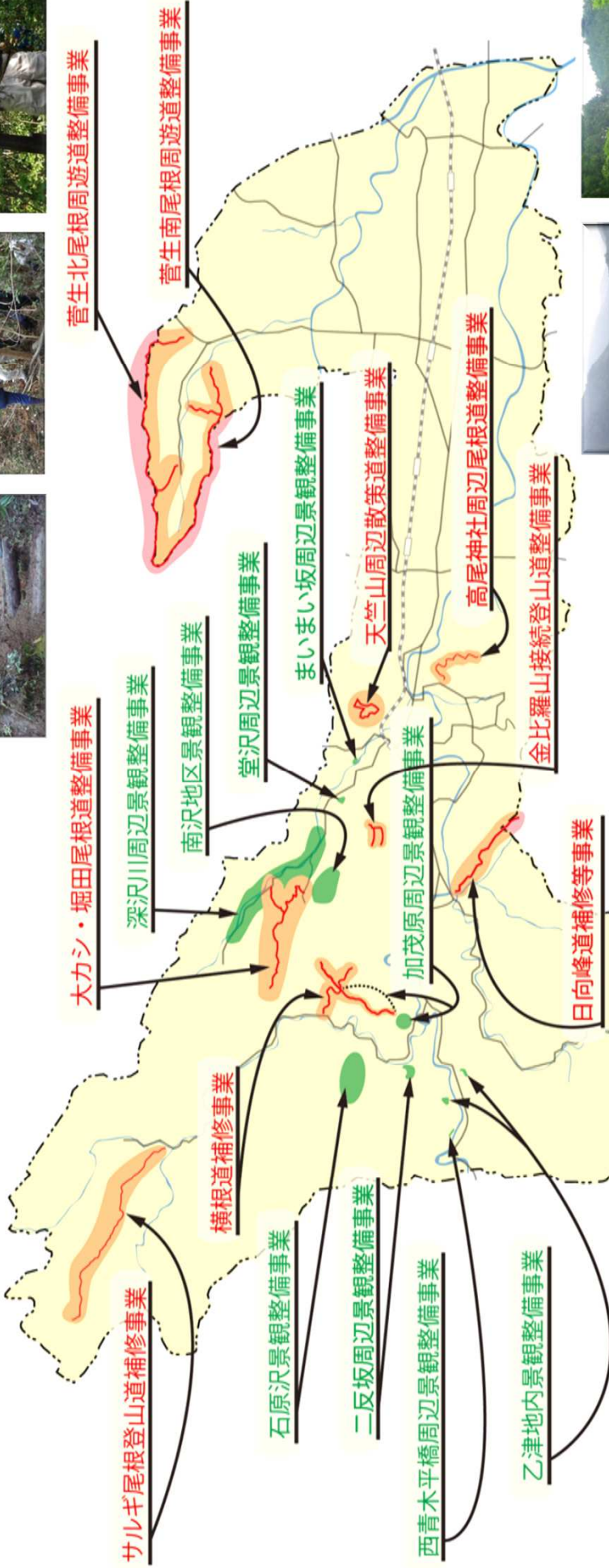


(右写真)罠の様子。罠を固定したり、隠すことで捕獲の成功率が高くなります。アライグマの大きな個体を捕まえるため、二つの罠を連結した様子です。(菅生地区)



地域との協働による森づくり事業

～整備した昔道がつながり一つの道となる～



平成22年度より、市内の15町内会自治会、18箇所の昔道の昔道整備及び景観整備を地域との協働で行ってきました。今思い返すと初年度は、草や蔓が繁茂した荒地を切り開いたり、急な斜面に材を運び階段を造ったりと重労働な整備が多く苦労しました。しかし、地域の方々と何度も整備を重ねてきた結果、今では見違えるような立派な昔道が各地で復活してきています。場所によってはそれぞれの地域で整備した昔道が尾根につながり一本の道になった整備箇所があります。

今まで多くの町内会自治会の方々と整備を行ってきましたが、協働の森づくりに関わる全体の情報交換の場がありませんでした。そのため、2月1日に「森づくりサミット」を開催し、各地域の整備の特色、今後の整備の課題等を話し合いました。(佐々木)

